

県内の市町村での環境への取り組みを紹介していきます。

# 市民との パートナーシップで ごみの減量を実践

彦根市清掃センター 所長 小川 喜三郎

彦根市ではごみの減量、分別を推進していくためにユニークな取り組みを実践しています。行政と市民、企業が協力しながら、環境意識の啓発を進め、循環型社会の構築を目指しています。

## 余剰汚泥の再生率一〇〇％ 肥料として有効活用

彦根市清掃センターでは、今から三十年以上前に汚泥乾燥装置を設け、家庭から排出されるし尿や浄化槽汚泥の再生を推進してきました。その取り組みの一つが余剰汚泥を肥料としてよみがえらせようというもの。一九七七年には処理施設

の拡充を図り、窒素やリン、色やにおいまで取り除ける高度処理施設の完成に伴い、乾燥汚泥（肥料）生産を本格的に開始しました。本来、汚泥処理は肥料として再生するよりも焼却したほうがコストも安く、手間もかからないのです。しかし、当センターのこうした取り組みは循環型社会の構築に向けて大きな弾みとなっていくのではないかと確信しています。



汚泥を肥料化するには、最初に脱水機

を使って汚泥に含まれる水分を八〇％程度まで減らし、そのあと汚泥乾燥機で乾かして顆粒状にします。汚泥を乾燥する燃料は、イオウ含有率〇・一％未満というLSA重油（低イオウA重油）を使っています。これは燃焼したイオウが大気中の酸素と結合して、有害なイオウ酸化物を発生するのを抑制するためです。また、汚水については微生物による生物処理で浄化して、きれいな水にして琵琶湖に放流しています。汚泥処理の工程で大気や水質を汚してしまつては意味がありません。当処理場では、再生処理工程でのゼロエミッションにも配慮しています。

こうして再生された肥料は年間約六〇〇トン（余剰汚泥の再生率は一〇〇％）にもなります。窒素とリン酸、カリウムの含有比率はほぼ「五対五対〇・五」、有機物は約六〇％含んでいます。厳格な

成分分析や植害テストをクリアしており、肥料取締法に基づいて普通肥料「おでい肥料」として国に登録されています。実際に使っていたいた皆さんからは、「野菜の育ちが良くなった」「農作物の収穫量が増えた」といううれしい声も多数寄せられています。処理施設内に専用の肥料置場がありますので、いつでもどなたでも無料で持ち帰っていただけて結構です。また、たくさん必要な方は、お近くであれば2トントラックや軽トラックでの無料配送サービスも行っていますので、ぜひお問い合わせください。

## ごみ指定袋の対象を拡大し、 ごみ減量に大きな効果

彦根市では、二〇〇二年十月から従来の紙製の燃やせるごみの指定袋を廃止し、新たに半透明の炭酸カルシウム入りポリ袋に変更しました。これにはいくつかの理由があります。まず一つ目として、燃やせるごみは毎年三％程度ずつ増加していたので、ごみの分別を早急に進めていく必要があったということ。半透明のポリ袋を使用することで、袋の中身が見えるようになり、分別の徹底が期待できます。もう一つは、最近増加しつつある塩素化合物のごみに対応するためです。塩素化合物のごみは焼却すると有害物質を発生しますが、袋に含まれている炭酸カルシウムと反応することによって、塩素濃度を下げられるのではないかと

考えたのです。

また、従来は燃やせるごみだけを指定袋の対象としていましたが、プラスチックごみと陶器類・その他のごみ（埋め立てごみ）、事業所が排出する一般廃棄物についても新たに指定専用袋を導入しました。指定ごみ袋の販売価格は十枚入りで家庭用（大）が百円、家庭用（小）とプラスチックごみ、陶器・その他のごみ用はともに八十円（いずれも税抜）。お金を出してごみ袋を購入しなければならぬという心理が働くことによって、少しでもごみの減量に結びつけられればと思っています。

指定専用袋を導入した当初は、「長尺物のごみ袋に入らない」「雑誌や段ボールも指定袋に入れなければならないの



「おでい肥料」置場

か」というような苦言も寄せられました。

そこで、新聞紙などの古紙や木の枝などについては袋に入れずに束ねて出してもよいということにしました。また、今年の六月末には六五センチ×五〇センチ（十枚入り百十円）の特大袋の販売を開始。分別回収をスムーズに進めていくために、これからもできるだけ市民の皆さんの意見を反映させていきたいと思っています。

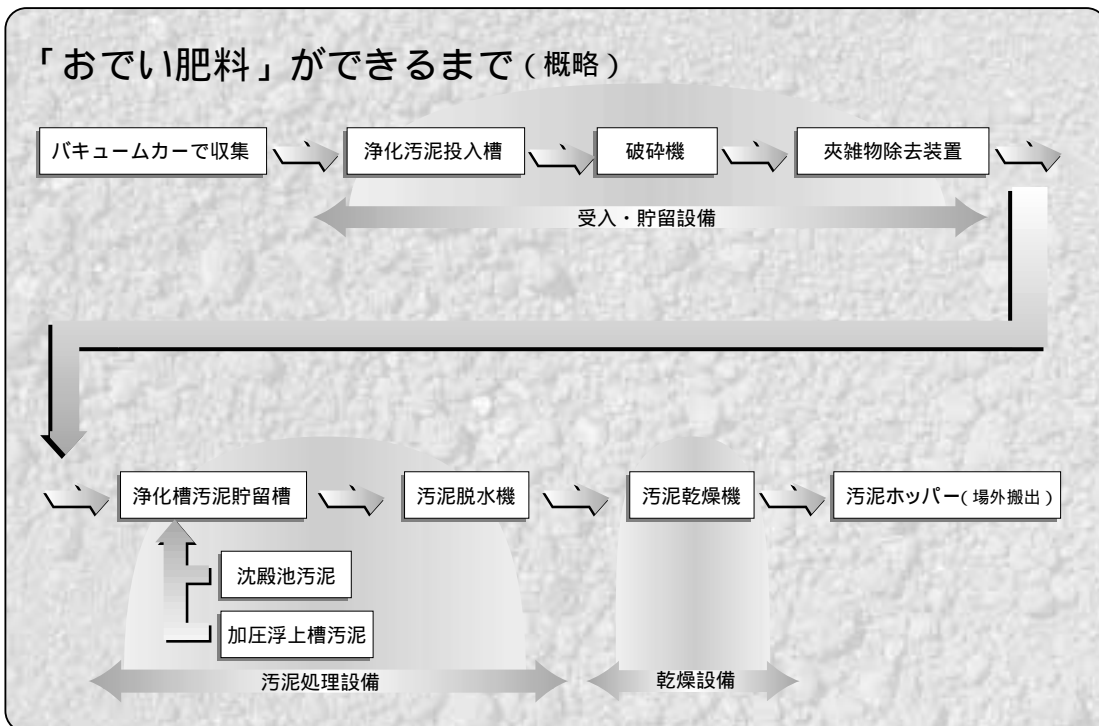
昨年十月から今年三月までの六カ月間に、燃やせるごみを約七％（一、一五〇トン）減量することができました。彦根



「おでい肥料」を持ち帰る利用者

市では八種類の分別回収を行っています。そのうち燃やせるごみの割合は全体の約八〇％を占めます。そのごみを減少させることができたのは大きな成果だったといえるでしょう。市民の皆さんの間に循環型社会への参加意識が根づいて、「不必要なもの」は購入しない」というライフスタイルの見直しが進んだのではないかと思っています。今後もちろんに啓蒙・啓発活

### 「おでい肥料」ができるまで（概略）



動を行いながら、引き続きごみの減量、分別回収に取り組んでいくことにしています。もうひとつ、従来、プラスチック類は圧縮・減容したものを埋め立てていたのですが、今年十月から「容器包装リサイ

クル法」に定められたプラスチック類（トレイやシャンプー、マヨネーズなどの容器）についても資源化を促進していくため、新たにリサイクル施設の建設を進めています。今年度はまず六〇〇トンの資源化を行っていく予定です。容器が汚れていると資源化ができないので、「中身を使い切る」「容器の中を水洗いする」など皆さんの協力をいただかなければなりません。循環型社会を形成していくためにぜひご理解をお願いしたいと思います。

## 草の根レベルの清掃活動で、琵琶湖を美しくきれいに

滋賀県では以前から琵琶湖の環境保全に熱心に取り組んでおり、県の外郭団体である「公園緑地協会」や「美しい湖国をつくる会」などが中心となって定期的な湖岸清掃を行ってきました。彦根市でも琵琶湖に面した湖岸面積が広く、また小さな河川が入り組んで存在することから、ボランティアグループなどに地域単位での清掃活動をお願いしており、当センターはごみの収集という形で積極的に協力しています。ボランティアのメンバーはさまざまです。学校や企業の職員、自治会、学生グループなど多くの市民の皆さんが参加し、散在性ごみの回収や除草に汗を流していただいています。昨年実績で、合計四十回以上のごみ収集依頼があり、そのうち半分ぐらいが琵琶湖岸

の清掃にかかわるものでした。

そのほか、毎年七月一日の「琵琶湖の日」や五月三十日が基準日の「ごみゼロの日」を中心に、行政と市民、企業の皆さんとともに琵琶湖の環境問題を考える意識啓発活動に取り組んでいます。JR彦根駅前環境スローガンが入ったティッシュペーパーやダストパックを配ったあと、みんなで琵琶湖岸の清掃を行うのですが、毎回三百〜四百名の参加者があり、市民の環境意識は確実に高まっています。市民の環境意識は確実に高まっています。今後とも、こうした地域レベルでの自発的な活動ができるだけサポートし、ボランティアの輪を広げていきたいと思っています。

最近の傾向として、花火やバーベキューなどに関するごみは減少しましたが、

家庭用の燃やせるごみやプラスチック類、ペットボトルのごみが増えてきているようです。コンビニの袋にお弁当やジュースの空き缶などが入って捨てられていることもあります。また、釣糸や釣針などがそのまま放置されていることも多く、湖岸に生息する動物がけがをするケースも少なくありません。残念ながら、五年前と比べて、琵琶湖岸や河川に捨てられたごみの量はあまり減少していないのが現状です。

こうした状況を受け、当センターでは彦根市を八ブロックにエリア分けし、八名の不法投棄監視員の方に定期的なパトロールをお願いしています。琵琶湖岸ばかりでなく、河川や山林などの不法投棄、散在性ごみを見つけて報告してもらおうと、素早い回収に結びつけ、ごみを捨てにくい美しい環境をつくらうと考えているのです。ただ、ごみのポイ捨て問題は、あくまで市民の皆さんのモラルにすぎないかありません。ごみを捨てる前に、湖岸清掃に汗を流している人がいることを思い出してほしいと思います。一人ひとりがほんの少し注意するだけで、町は美しく変わっていくのではないのでしょうか。

## 市民参加型の美化活動を実践しながら環境意識を啓発

彦根市は昨年九月に環境規格ISO14001の認証を取得しました。行政と

して積極的に環境問題に取り組んでいくという姿勢を表したもので、電気や燃料の使用量については厳しい目標値を定めながら、市民の皆さんの規範となるように頑張っていきたいと思っています。しかし、ごみの発生量が多くなれば、電気や燃料の使用量もおのずと増えてしまいます。トータルコストを抑制する意味でも、ごみの減量や分別の徹底にご協力をお願いしたいと思います。

また、昨年十月一日から「彦根市ごみの散乱およびふん害のない美しいまちづくり条例」がスタートしました。これは彦根市内に居住、勤務、通学、滞在、また市内を通過する人を対象としたもので、ごみのポイ捨て禁止やたばこの吸殻の散乱防止、犬のふんの後始末などを定めています。違反をすれば、二万円以下の罰則規定も設けられています。また条例が施行されたばかりですので、今後さらに市民生活の中に浸透するように啓発を行っていきたく考えています。

そのほかにも、各地域の自治会などにおいて、排水路の清掃や空地の除草などに自主的に取り組んでもらっています。現在、美化活動を実践している自治会は約二五〇〜三〇〇地域。行政が努力するのはもちろんですが、彦根市ではこのように地域の皆さんが参加できる実践型の取り組みを推進しながら、「だれもが住みやすい、美しい彦根市」を目指して頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



乾燥、おてい肥料